

## 認知症予防プロジェクト推進室の設立と研究&認知症予防道場の開始

研究代表者 保健学研究科長 木戸 良明

我が国の認知症患者数が2025年には約700万人に達すると予想され、厚生労働省は「認知症施策総合戦略（新オレンジプラン）」を発表し、それに基づき関連機関や区市町村レベルでの施策が実施されています。

神戸市は本年4月に「認知症の人にやさしいまちづくり条例」を制定し、認知症の予防・早期介入、治療・介護の提供、地域力の向上、そして事故の予防と救済を柱とした各施策を、医療機関や介護事務所、WHO神戸センター、大学、研究機関等と連携をすすめながら実施していくことを決定しました。

こうした社会環境のもとで、神戸大学では総合大学の強みを生かし、研究・教育・社会実装チームが連携して「認知症予防プロジェクト推進室」を設立し、認知症予防に関する研究・教育を推進するとともに社会実装としての健常高齢者を対象にした認知症予防道場を開始することになりました。

研究に関しては、①認知症の早期診断を可能にするバイオマーカーの研究基盤整備 ②新規の認知機能診断システムの研究開発 ③アクティブライフリソースバンク構築をベースにした認知症予防対策開発を進めていきます。

一方、認知症予防道場に関しては、健常な高齢者に図1に示す6プログラムを実践する「道場」に参加してもらい、ご自身の力で認知症リスクを低減するお手伝いをしていきます。本道場の中心は、運動と認知の実践プログラムにあります。並行して身体機能・認知機能の評価を定期的に行い、これら諸活動の効果を確認していきます。また、必要に応じて認知症専門医等による適切なアドバイス等を行っていきます。

本道場の活動は、神戸市内数十ヶ所の市民団体との連携や例えばスポーツジムや介護施設など各種企業との連携を図っていく予定です。また、本学の卒業生・各同窓会・学友会や現・退職教職員へ道場の参加を呼びかけ、道場の輪を大きく広げていきたいと考えています。

昨年度は合計3回の道場（各3ヶ月：図2に示す）を開催し、先行研究を開始するとともに道場運営を蓄積してきましたが、今年度から介護付き有料老人ホーム「神戸ゆうゆうの里」と共同で入居者を対象とした道場を開始することが決まり、さらに活動の幅を広げていきます。今後、道場に関する場所や時間等について、大学のホームページ等を通じてお知らせしていきます。

協賛企業：シスメックス、神戸ゆうゆうの里

協力機関：神戸市、神戸新聞、神戸大学学友会、WHO神戸センター

図1 認知症予防道場の6プログラム

1. 運動・認知実践プログラム
2. 認知機能評価プログラム
3. 血液検査プログラム
4. アクティブライフ評価プログラム
5. 評価者育成プログラム
6. 医療総合判定と認知症専門医への紹介

図2 H29年度 認知症予防道場の実施風景



第1、2回  
神戸市名谷

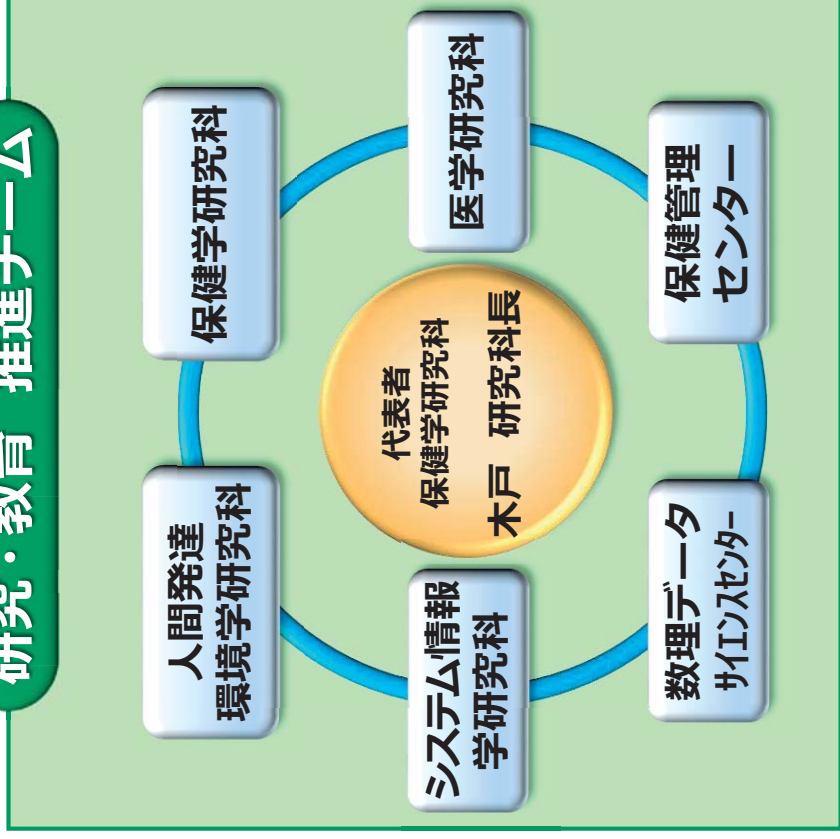
第3回  
神戸大学内  
六甲台

# 認知症予防プロジェクト推進室（研究・教育&事業 推進チーム）

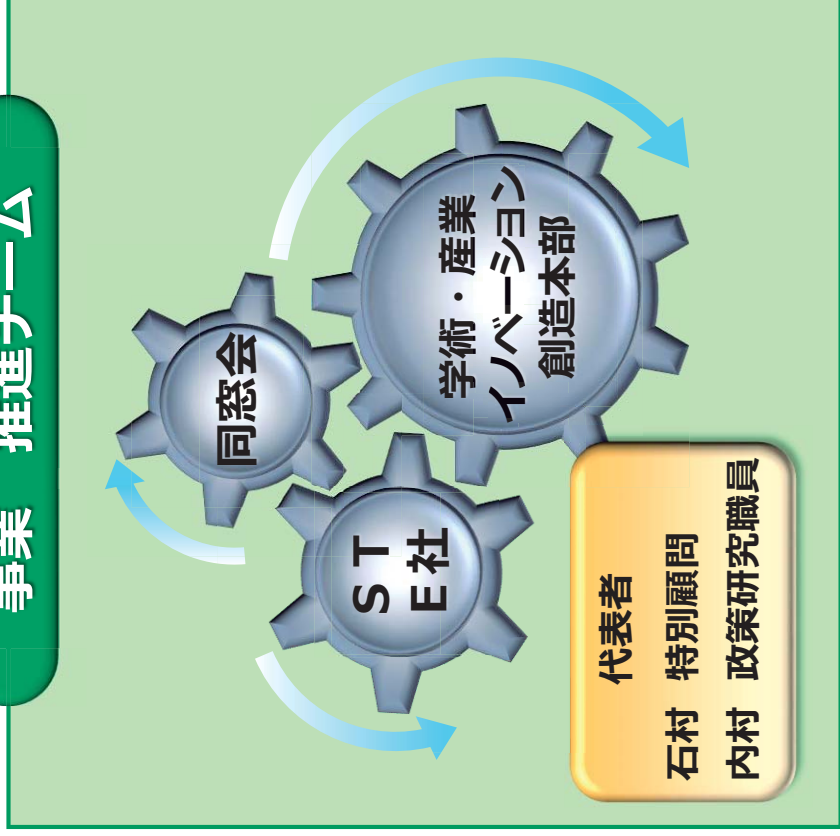
認知症予防プロジェクト推進室

小田室長（副学長）

## 研究・教育 推進チーム



## 事業 推進チーム



# 認知症予防プロジェクト（＝研究・教育＋事業）

目的：「健常な高齢者を対象にした認知症予防」こそが、認知症人口抑制に有効な手段との認識に立ち、神戸大学の教育・研究をベースに、予防事業を実施し、神戸市等の公的機関と連携して、国の認知症対策の一端を担う

背景：高齢者の4人に1人は、認知症やその予備軍と言われ、平成37年度には700万人にまで増大すると予想されており、厚労省から「新オレンジプラン」が策定・推進されている

## ◆ 神戸大学「研究・教育」

<研究1> 認知症の早期診断を可能にするバイオマーカーの研究基盤整備

<研究2> 新規な認知機能診断システム研究開発

<研究3> アクティブライフリソースバンク構築をベースにした認知症予防対策開発

<教育> 学部・大学院生に対する高齢者問題及びボランティア教育

## ◆ 認知症予防事業

健常高齢者を対象にした6プログラムをベースにした有料の「認知症予防道場」

- ① 認知・運動実践プログラム
- ② 認知機能評価プログラム（MCI評価）
- ③ 血液検査プログラム
- ④ アクティブライフ評価プログラム
- ⑤ 評価者育成プログラム
- ⑥ 医療総合判定と認知症専門医への紹介

■ TYPE 1：神戸市在住一般 高齢者

■ TYPE 2：オール神戸大学 高齢者（学生・教職員・卒業生）

協賛企業：シスメックス、神戸ゆうゆうの里

協力機関：神戸市、神戸新聞、神戸大学学友会、WHO神戸センター